

## 米国UMass Amherstと技術職員研修を実施

10月27日（月）～31日（金）に、本学の戦略的国際パートナー校である米国マサチューセッツ大学アマースト校（UMass Amherst, UMA）の技術職員3名を招き、2025年度の技術職員研修を開催しました。本事業は、専門職員（技術職員）の相互派遣とオンライン交流を通し、技術職員のグローバル感覚の醸成、多角化する共通課題に関する海外相談ネットワークの構築、国際共同研究支援体制の強化と、全学へのその効果波及を期待するもので、本学が採択されている「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の予算支弁の下、企画されました。初回となる今回は、UMAから応用生命科学研究所のジェイムズ・チェンバースUMAニコイメーキングセンター長とデイヴィッド・フォレット先端デジタル設計・製作及びデバイス特性評価担当長、農業・食糧・環境センター/ストックブリッジ農学校のエリザベス・ガロファロ外部連携果実教育員が来訪しました。

3名は、技術連携統括本部の網塚 浩副学長/本部長、佐崎 元技術統括、永井謙芝技術副統括、及び渡辺孝之総長補佐らとの面会に加え、双方向の取

り組みとして北大側のカウンターパートとなる、遺伝子病制御研究所の石垣聡子技術専門職員、工学研究院の鈴木啓太技術専門職員、北方生物圏フィールド科学センターの増茂弘規技術専門職員、国際連携推進本部の植村妙菜学術主任専門職と学内各所を視察し、キャンパス及びフィールドで働く技術職員と交流を深めました。

星野洋一郎教授と訪問した余市果樹園では、りんごの収穫を体験し、米国東海岸のりんご生育のトレンドや害虫防除の話が弾み、植物園では、ガロファロ氏から踏み固められた地面を柔らかくし、樹木の根圏成長を助ける低廉な手法が提案されました。キャンパス内ではチェンバース氏の希望に基づきニコイメーキングセンター、遺伝子病制御研究所、総合研究基盤連携センター、工学団地を訪問し、特に試作ソリューションや機械工作室の技術職員とは、フォレット氏が取りまとめるUMAの類似のサービスに関して、本学の部局や研究分野では、想像できないような受注内容があることや、半年以上間隔を空けて追加相談がある場合にも備えて、依頼品サンプルを集めていること等について活発な情報共有が

行われました。

教員以外の専門職員は終身雇用制ではなく、無期限ではあるが継続雇用が保証されている訳ではないUMAの人事制度も踏まえ、技術継承制度や外部認証による各職員のモチベーション担保とキャリア形成、公立大学規模の研究インフラ支援で外貨を獲得する流れ等、今後も多くの事柄について情報交換と互恵的な交流が成り立つことを、双方が実感した5日間となりました。

技術職員6名がそれぞれの仕事について紹介するプレゼンテーションには学内から30名程が集まり、ネットワーキングランチには訪問先以外の技術職員も顔を出し、技術職員間における他分野業務への関心の高さと、類似職による交流の機会が求められていることがうかがえました。2026年6月には、UMAで今回の研修と対をなす研修が行われるほか、同年秋に、同じく戦略的国際パートナー校である豪州メルボルン大学の技術職員を北大に迎えて、同大学との研修を行う予定です。

（国際連携推進本部、技術連携統括本部、研究推進部研究支援課）



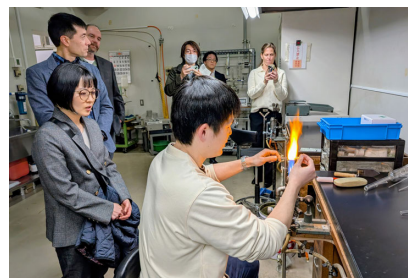
UMAの3名



両校参加者との集合写真



果樹園訪問



工学ガラス工作室